



地域の医療体制について

国の方針として、病気を程度によって一次（初期）医療、二次医療、三次（高度）医療に分けています。通常の病気であれば、まずは主に一次医療を担う診療所を受診し、入院が必要と判断されれば二次医療を担う病院に紹介され、高度医療を必要とする病状であれば三次医療である大学病院級に紹介されることが通例です。

市内には、一次医療を担う数多くの診療所（開業医）があります。身近で、気心の知れた診療所（専門領域に拘らず）と懇意になり「かかりつけ医」になってもらい気軽に相談できることが望ましく、病状によっては、適切な医療機関を紹介してもらい、その返事をもう一度かかりつけ医と相談し、分かりにくい部分の説明を聞くこともできて安心です。

救急車を必要とするような病状の場合には、二次医療圏（宇部、山陽小野田、美祢）のなかの病院群が協力しあい、365日をカバーする体制になっています。そのため、遠方の病院で最初の治療を受けることもありますが、次には近所の病院に変わりたい

旨を遠慮なく申し出てください。どの医療機関も患者さんの希望にできるだけ添うように配慮します。

お互いに信頼し合って、納得できるよう受診していただけることを願っています。

「医療にかかる 10 箇条」

あなたが「いのちの主人公・からだの責任者」

「NPO 法人ささえあい医療人権センター COML」は、より良い医療を受けていただくために患者自身を主人公として、医療に参加する心構えを提唱しています。

- ①伝えたいことはメモして準備
- ②対話の始まりはあいさつから
- ③よりよい関係づくりはあなたにも責任が
- ④自覚症状と病歴はあなたが伝える努力を
- ⑤これからの見通しを聞きましょう
- ⑥その後の変化も伝える努力を
- ⑦大事なことはメモをとって確認
- ⑧納得できないときは何度でも質問を
- ⑨医療にも不確実なことや限界がある
- ⑩治療方法を決めるのはあなたです

女と男の一行詩

- お前もか おれも育児休暇で 公園デビュー
- 「待ってます」上司に言われ抱えたお腹
期待に応えるママになる
- 結婚した途端 なんで あんたは 座っているの!?
- ねえ父さん たまには料理してみない?
男の手料理 ぼくたち二人で
- 辞めないよ 追いつめられても キャリアウーマン

「女と男の一行詩」は、男女共同参画社会の実現に向けた啓発活動の一環として平成11年から始まり、ただいま第12回の作品を募集しています。身の回りで感じる男女差別や男女平等への想いを詠んだ一行詩は、市内だけでなく、全国からたくさんの応募をいただいています。一行詩に込められた想いにドキッとしたり、共感したり、思い当たる節はありませんか。そこから、より良い関係づくりが始まると信じています。

みなさんもぜひ、一行詩の作品づくりに挑戦してみませんか。多数のご応募をお待ちしています。

■問い合せ・応募先

〒756-8601 山陽小野田市役所
市民活動推進課 (☎ 82-1134 FAX 83-9336)
(市のホームページからWEB申請サービスでも受付)